成田歴史玉手箱

●72回●（最終回）

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

成宗電車の面影を伝える「函館ハイカラ号」（函館市交通局提供）

成田市観光循環バスと函館ハイカラ号

成宗電車の面影を残し市街地を走る

権現山付近を走る成宗電車（成田市立図書館所蔵）

昭和12年から除雪車として活躍した「雪2号」（函館市交通局提供）

3月15日から運行が開始された成田市観光循環バスは、JR成田駅を起点に表参道―成田山門前―イオンショッピングセンター―成田空港間を結ぶレトロ調のバスです。このバスは、明治43年12月に千葉県で最初に走った電車である成宗（せいそう）電車をイメージして製作されました。成宗電車は「チンチン電車」の愛称で親しまれ、成田山と宗吾霊堂を結び、昭和19年までの35年間走り続け、地域の発展に大きく貢献してきました。バスをよく見ると二重屋根の車体、乗降口にドアのないオープンデッキ、側面の窓枠や飾りつけ、正面中央のヘッドライトを模したデザインなど、成宗電車の特徴をよく捉えています。車内のモニターでは、日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語で案内が表示され、市のイベントや特産品なども紹介されています。

ところで、開業時に成田の町を走った成宗電車は15両。しかし、その経営は苦しく大正7年には9両が売却され、うち5両が函館水電（現在の函館市交通局）に移り客車として運行されました。その後、昭和9年の函館大火で4両が焼失し、生き残った1両は除雪車に改造され平成4年まで活躍しました。そして、函館路面電車開業80周年および市制施行70周年記念事業の際、市電愛好会やチンチン電車を走らせよう会の地道な運動により、除雪車を購入時の姿に戻すことが決まりました。平成5年に復元された電車は、「函館ハイカラ号」の愛称で毎年4月15日から10月31日までの期間、毎日運行されています。

部品や色などは当時と異なりますが、成宗電車の面影を残して走っているのは成田市観光循環バスと函館ハイカラ号の2つだけ。電車運行当時のトンネルが2つ残る、京成成田駅から成田山門前に通じる約1kmの道は「電車道」と呼ばれ、昭和55年の公募で名付けられたもの。営業廃止後30数年経っても市民の成宗電車に対する愛着が深いことをうかがわせます。成宗電車は市民の記憶の中に深く刻み込まれ、1世紀の時を経て再び成田と函館で走り始めました。

電車道を走る成田市観光循環バス。後ろのレンガ造りのトンネルは明治時代の貴重な遺産

編集後記

平成13年6月から連載が始まった「成田歴史玉手箱」は本号で最終回です。関係者の思いや情熱を少しでも伝え、記録として残したかったため、聞き取り調査を中心に取材を続けてきましたが、十分にそれを果たせたかは分かりません。これまでに貴重なお話や写真・資料などの提供を受けた数は、200件を超えました。市民の皆さんや関係機関のご協力に感謝いたします。振り返れば、回を重ねるごとに市民や各方面からの反響や問い合わせなどが広報課に届くようになり、それが次回執筆のエネルギー源になりました。何よりも皆さんの地域を温かく見つめ、そして真摯に語る姿を忘れることができません。

成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

広報なりたは再生紙（古紙配合率100%、白色度81.5%）を使用しています。